

平成 17 年 1 月 19 日

(市長記者会見資料)

京 都 市
(消防局庶務課 212-6629)

京都市消防活動総合センター（仮称）の整備について

京都市では、現在、平常時、大規模災害時を通して消防活動の拠点となる総合的な機能を持つ「京都市消防活動総合センター（仮称）」を、全国の消防機関では初めての施設として整備を進めています。

当センターは、平常時には、消防車両の点検整備や活動器材の備蓄・補給等を行う消防活動の支援施設や、消防学校・訓練施設として運用し、地震等の大規模災害発生時には、緊急消防援助隊（以下、「援助隊」とする）の活動拠点として最大約 400 隊・1,800 人が長期の支援活動を行える施設として運用します。

この度、第 1 次整備分が 3 月に完成し、第 2 次整備分に着手する見通しとなりましたので、センター全体が持つ総合的な機能について、次のとおり、お知らせします。

1 施設概要

- (1) 建設場所 南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内他
[名神高速道路京都南インターチェンジ、国道 1 号線・171 号線に近接した土地]
- (2) 敷地面積 約 34,000 m²
- (3) 施設内容 平常時：活動支援施設、消防学校、訓練施設
大規模災害時：後方支援拠点、作戦情報室、援助隊集結場所
総延床面積 約 15,500 m²
- (4) 総事業費 112 億円（予定）

2 整備計画

- (1) 第 1 次整備
 - ア 敷地面積 約 7,000 m²
 - イ 整備施設 管理棟（資器材備蓄倉庫、消防活動支援車両車庫、事務室）
整備棟（車両整備、燃料等補給施設、化学消火薬剤保管庫等）
2 棟計延床面積 約 3,900 m²
 - ウ 年次計画
 - 実施設計 平成 14 年度
 - 建設 平成 15～16 年度
 - 開所予定 平成 17 年 3 月 18 日（金）
 - エ 事業費 23 億 2,700 万円
右京区天神川御池にある装備課を移転・整備

(2) 第 2 次整備

- ア 敷地面積 約 27,000 m²

- イ 整備施設 消防学校，訓練施設等 延べ約 11,600 m²
- ウ 年次計画（予定）
 - 実施設計 平成 17 年度
 - 開所予定 平成 20 年度
- エ 事業費 89 億円（予定）
 - 伏見区深草にある消防学校，訓練施設を移転・整備

3 施設機能

(1) 平常時

消防車両等の点検整備や活動器材の備蓄・補給をはじめ消防活動支援車両等を一元管理することにより災害現場活動を支援するとともに，消防学校として消防職員及び消防団員に対する訓練，研修を実施する。

(2) 大規模災害時

地震等の大規模災害発生時には，全国から集結する援助隊の活動拠点として，最大約 400 隊・1,800 人の援助隊を収容し，情報提供や効率的な部隊運用を行うとともに，長期活動に備えた消防活動器材，燃料の補充等を行う。

4 機能比較

区 分	平 常 時	大 規 模 災 害 時
第 1 次整備	活動支援施設 <ul style="list-style-type: none"> ・特別装備隊（空気充填車，電源照明車等で構成）の配置，運用（24 時間体制） ・消防車両の点検整備 ・活動器材の備蓄，補給 	後方支援拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・援助隊への活動器材，燃料の補給 ・援助隊の車両，器材の緊急修繕 ・特別装備隊の運用
第 2 次整備	消防学校 <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員の研修（全寮制） ・消防職員の教育研修 ・消防団員の教育研修 ・鑑識，危険物の性状試験等 	作戦情報室 <ul style="list-style-type: none"> ・消防指令システムを活用した援助隊の指揮統制 ・消防機関相互の情報連絡 ・援助隊の受付・登録 ・援助隊への情報提供 ・援助隊の待機，宿泊施設
	訓練施設 <ul style="list-style-type: none"> ・消防職員訓練 一般建物や中高層建築物，街区を想定した火災訓練や救助訓練 ・消防団員訓練 操法訓練等 ・自衛消防隊，自主防災会等の訓練 	援助隊集結場所 <ul style="list-style-type: none"> ・援助隊の車両集結場所（消防車両最大 400 台分収容可能） ・ヘリコプター緊急離着陸場 ・援助隊の待機，宿泊施設 ・物資の応急集積

緊急消防援助隊

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、国内で発生した大規模災害に迅速に対応するために平成7年6月に発足した全国的な消防機関相互の応援部隊。
大規模・特殊災害発生時には、消防庁長官の指示又は求めにより部隊が出動。

特別装備隊

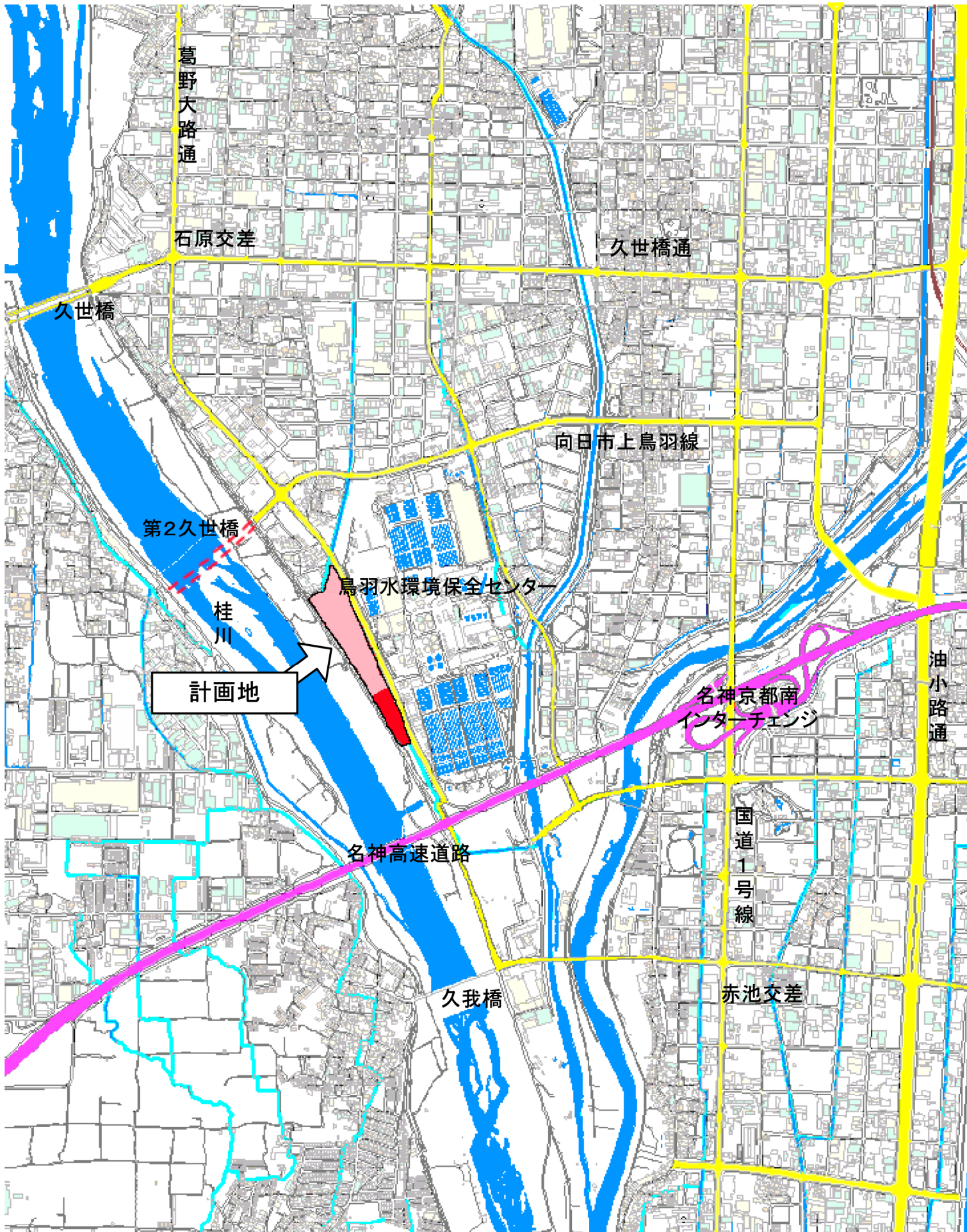
平成11年4月1日、災害現場活動の支援体制の充実を図るため、消防局装備課に配置した京都市の部隊。24時間体制で電源照明車、空気充填車（消防隊員が現場活動で使用する空気呼吸器用のボンベに空気を充填する装置を積載した車両）、クレーン車、多目的物資搬送車等を運用し、災害現場で活動する部隊の支援活動を行う。

参考「他都市の緊急消防援助隊受入施設の機能」

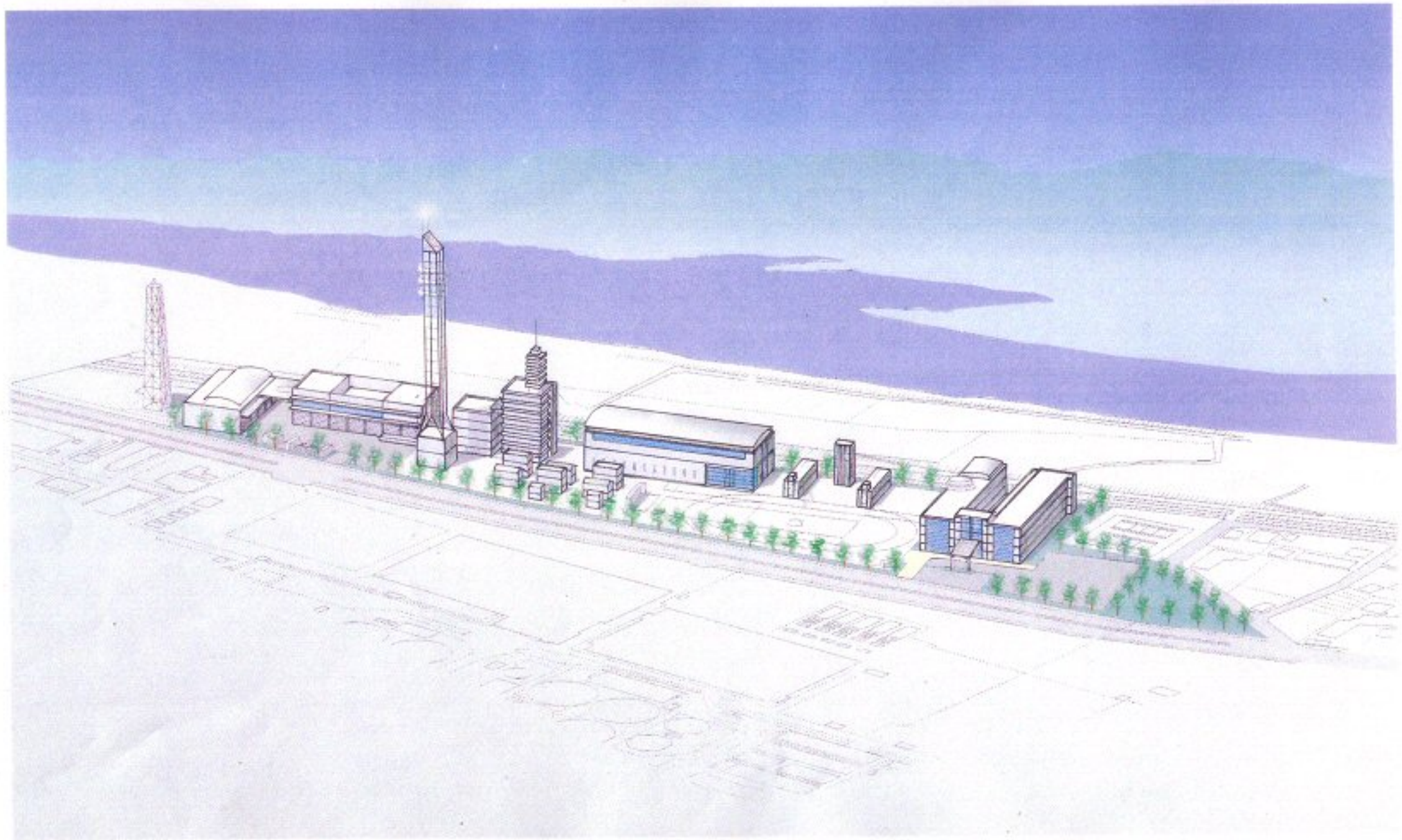
都市名	受入施設	敷地面積等	後方支援拠点	作戦情報室	援助隊集結場所	活動支援施設	消防学校	訓練施設
京都市	京都市消防総合活動センター	34,000㎡ (予定)						
千葉市	千葉市消防学校	65,470㎡	×	×		×		
横浜市	横浜市消防訓練センター	54,093㎡	×	×		×		
札幌市	札幌市消防学校	48,793㎡	×	×		×		
大阪市	大阪市消防学校	41,277㎡	×	×		×		
名古屋市	名古屋市消防学校	39,383㎡	×	×		×		
福岡市	福岡市消防学校	33,625㎡	×	×		×		
神戸市	神戸市市民防災総合センター	29,681㎡	×	×		×		
川崎市	川崎市消防総合訓練場	23,254㎡	×	×		×	×	
広島市	広島市西風新都消防訓練場	21,995㎡	×	×		×	×	
北九州市	北九州市消防局訓練教育センター	20,650㎡	×	×		×	×	

東京都	東京消防庁消防学校	33,165㎡	×	×		×		
	第八消防方面本部訓練場	11,500㎡	×	×		×	×	

消防活動総合センター(仮称)計画地 付近見取り図



京都市消防活動総合センター(仮称)



京都市消防活動総合センター(仮称) 全体イメージ図

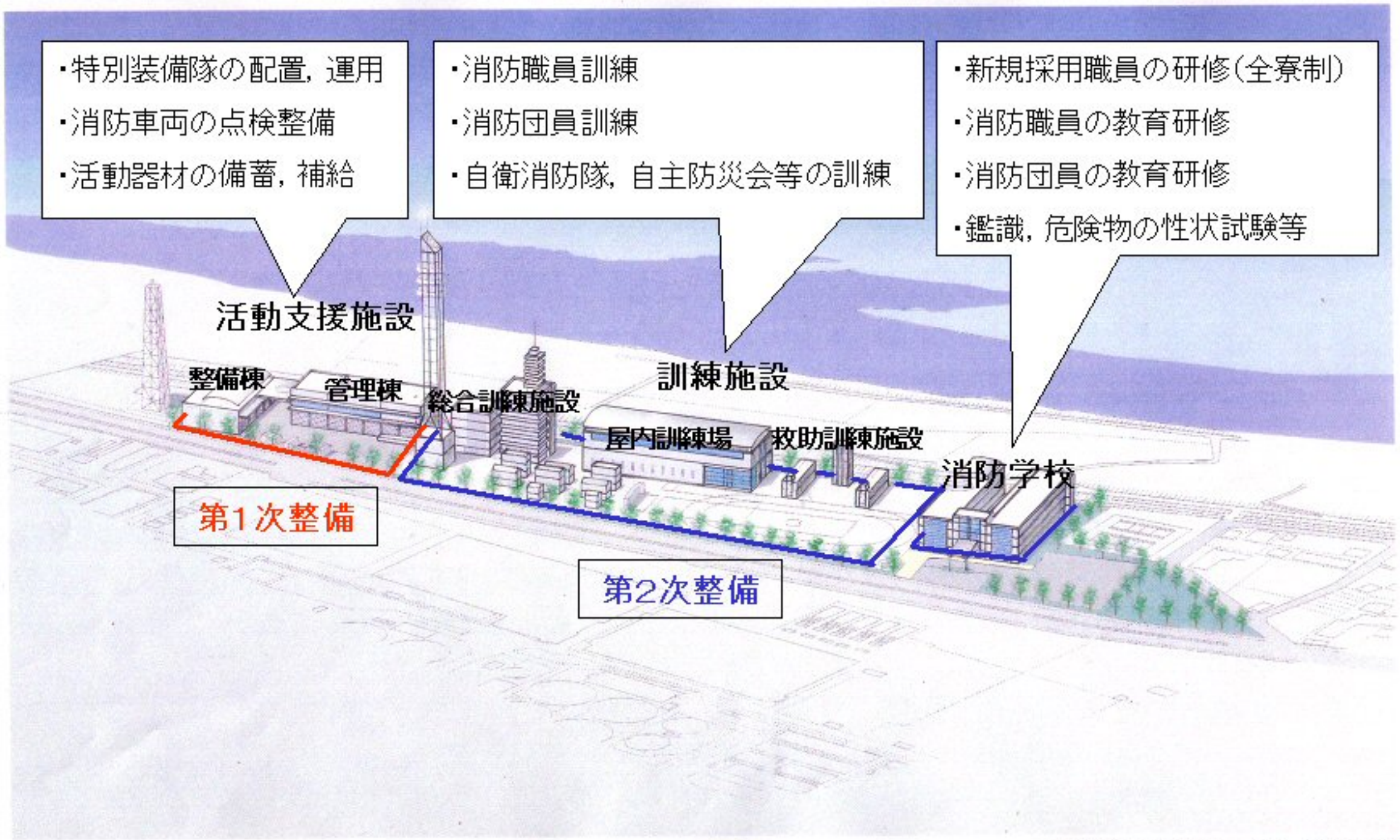
京都市消防活動総合センター(仮称)機能

平常時

- ・特別装備隊の配置, 運用
- ・消防車両の点検整備
- ・活動器材の備蓄, 補給

- ・消防職員訓練
- ・消防団員訓練
- ・自衛消防隊, 自主防災会等の訓練

- ・新規採用職員の研修(全寮制)
- ・消防職員の教育研修
- ・消防団員の教育研修
- ・鑑識, 危険物の性状試験等



京都市消防活動総合センター(仮称)機能

大規模災害時

- ・援助隊への活動器材, 燃料の補給
- ・援助隊の車両, 器材の緊急修繕
- ・特別装備隊の運用

後方支援拠点

- ・援助隊の車両集結場所 ①
- ・ヘリコプター緊急離着陸場 ②
- ・援助隊の待機, 宿泊施設 ③
- ・物資の応急集積 ④

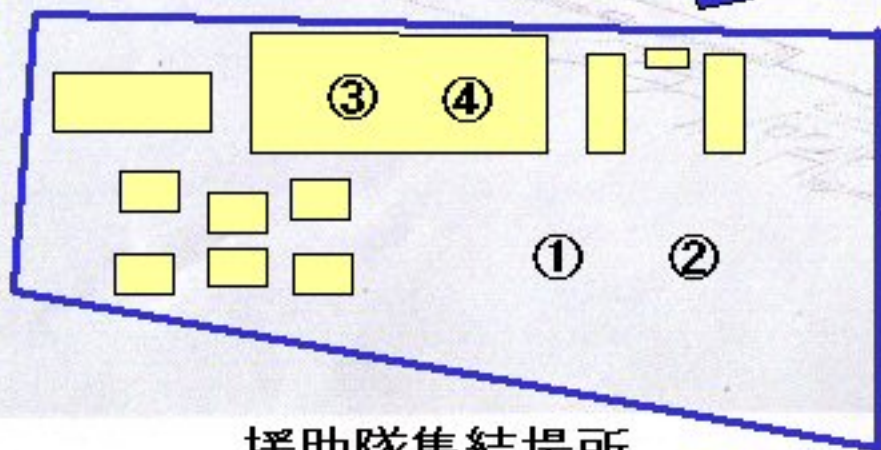
援助隊集結場所

- ・消防指令システムを活用した援助隊の指揮統制
- ・消防機関相互の情報連絡
- ・援助隊の受付・登録
- ・援助隊への情報提供
- ・援助隊員の待機, 宿泊施設

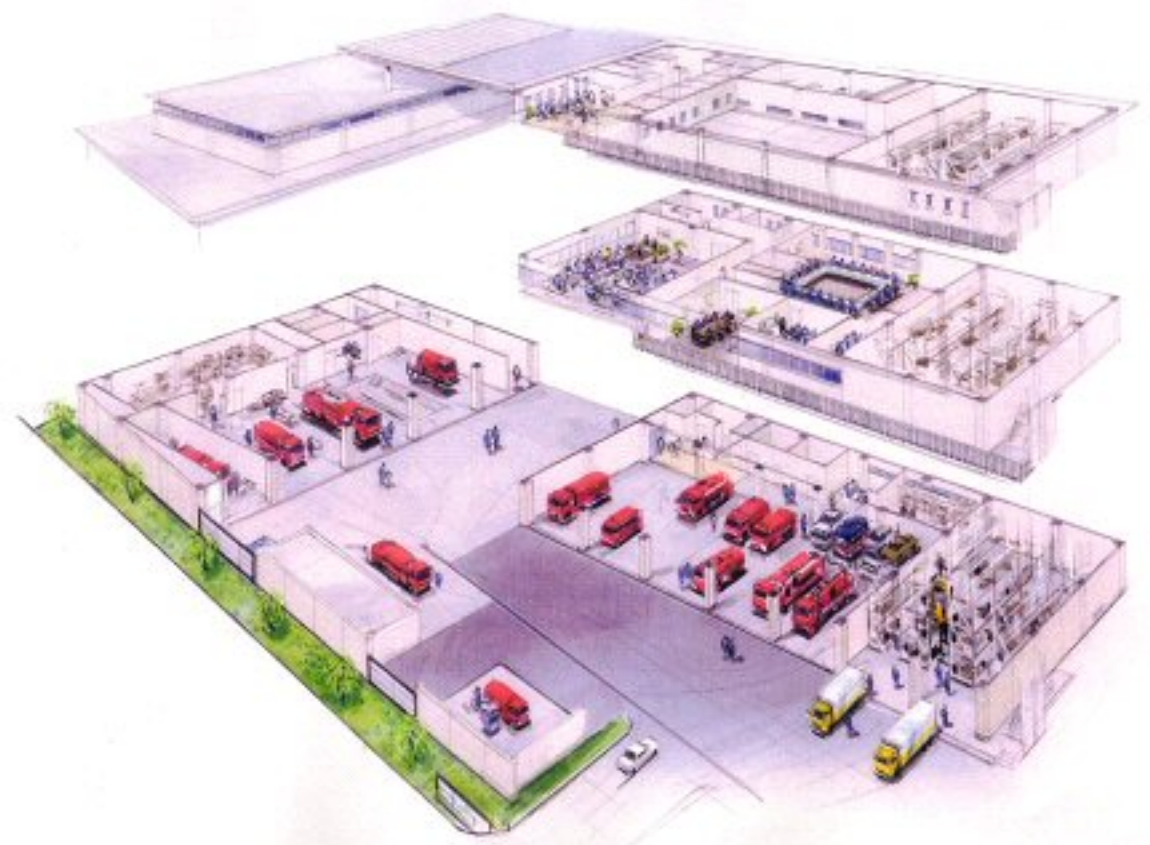
作戦情報室

第1次整備

第2次整備



京都市消防活動総合センター（仮称）第1次整備



消防活動総合センターによる緊急消防援助隊の運用計画

